

平成 24 年瀬戸内海国立公園自然観察会「宮島干潟の生き物観察会」

実施日時：平成 24 年 9 月 1 日（土） 13:30～17:00

場 所：広島県廿日市市宮島町（大元干潟）

講 師：清水 則雄 氏（広島大学総合博物館）

参 加 者：41 名（募集定員 30 名）

天 候：くもり

内 容：宮島の大元干潟にて干潟の生き物を観察した後、樹脂で固めたアシハラカニやアナジャコなどの巣穴を掘り出し、形の違いについて学んだ。また、石垣にすむ生き物が帶状にすみ分けをしている様子などを観察した。

【実施風景】



開会式

環境省の榎自然保護官、
講師の広島大学総合博物館清水先生より挨拶をいただきました。



国立公園について解説

瀬戸内海国立公園が一番大きな国立公園って知ってましたか？



双眼鏡で干潟を観察してみよう！

干潟を上から見てみると、砂質もあれば泥質のところもあるね。
近づくと逃げてしまうカニも双眼鏡なら普段の様子が観察できたよ。



早速干潟に下りてみよう。



至る所に巣穴がいっぱい！

干潟の上の方はアシハラガニがたくさんす
んでるね。

カニの巣穴ってどんなかたちなのかな？



樹脂を掘ってみよう！

どんな形の巣穴が取れるかな？



掘り出した巣穴。

Yの字に取れたこちらはアナジャコの巣。

下までは取れなかったものの、2つの巣穴が
取れました。



こちらは掘り出しにかなり時間がかかった大物。オサガニとアナジャコの巣が混在したものでした。



つづいて、またもや干潟に突き刺さった怪しい物体を発見。

“ハンディージオスライサー”という土壤の断面図を見るための調査器具。どんな断面図が出てくるかな？



ハンディージオスライサーで抜き取った土壤断面図。

下側は嫌気性の泥質なのに対して、上側は好気性の砂質。理由はカニなどの干潟の生き物が有機物を食べてくれるから。

干潟は天然の浄化槽の役割を果たしているんだね。



自由に干潟の生き物を探してみよう。

アシハラガニ、チゴガニ、コメツキガニ、イソガニ、マメコブシガニ、ガザミ、クチバガイ、ホトトギスガイ、ホソウミニナ、アナジャコなどたくさんの生き物が見つかりました。



アラムシロガイの食事

海の掃除屋と呼ばれるアラムシロ。
死がいを見つけると1~2分でこんなに集ま
ってきます。



石垣の帶状分布について

干潟にすみ分けがあるように、石垣にもすみ
分けがあるよ。フジツボやヒザラガイなど干
潟とは違った生き物がすんでるね。



指標生物カメノテ

石垣の上部にはわずかながらカメノテを発
見！海がきれいな証拠でもあります。



閉会式

最後に清水先生より“干潟”についてまとめ
の話をいただきました。
夏休み最後の良い思い出になったでしょうか。
暑い中お疲れ様でした！

